

## 【市販書籍の比較分析から推定する試験課題】

- 研究会の**予測課題2**は、市販書籍(N社)を**分析**して、そこから導き出される項目等を参考に作成する(その他、予測課題1と異なるパターンとするため、南側にプール長手方向を**東西**にした課題とする)。
- センターの本試験課題と市販書籍(S社、N社)の予測課題とが、どの程度類似しているかH26の課題で分析した(会員講座「9章製図試験課題と一般書籍等との比較検討」参照)。
- H26分析結果から研究会が推定したことは、試験元であるセンターは市販書籍の内容を完全に把握し、試験課題作成時に市販書籍の内容をある程度加味しながら試験問題を作成しているのではないかと推定した(その後、H27、H28、H29分析含む)。
- 毎年、製図試験の合格者の約9割の方は、S社・N社いずれかの資格学校へ通学している方が占めている(合格者の約9割は資格学校通学者であり、通学者の約50%が合格するので、事実上資格学校内での1/2の競争となっている)。  
⇒平成27年の製図合格者3,774名のうち、大手学校の合格占有率は、S社57%(2,149名)、N社30%(1,145名)、その他13%(480名)であった(つまり、大手学校の合格者は、約**9割**を占める)。
- 試験元のセンターとしては、あまりに難しい課題にすると、受験者が解答し難く試験そのものの是非が問われかねないという背景も見え隠れする。
- その解決には、誰もが見れる市販書籍の内容を加味することは有効な手段と判断でき、センターもこの市販書籍の内容を完璧に把握して、ある程度類似した試験問題としているものと、H26等過去の分析から推定した(平等性の観点から市販資料のみであり、資格学校内の課題は含まれないと推定)。  
⇒ただし、S社は、H29から市販書籍の販売を**中止**した(現在、S社は大多数の受験者が通学しており、「S社の情報を得たいなら通学したら」という感じを受ける、それにしてもS社の通学費は高く受験者にとって優しくないように思えるが?)。
- 上記を踏まえ、ここでは、市販書籍(N社)の予測課題(3つの予測課題)を各項目別に分析し表1に取りまとめた(S社の市販書籍はないが、H29は研究会の予測課題がズバリ80%以上の中のできたので、市販書籍の分析は有力な検討事項である)。  
⇒**予測課題1**は最も**基本的な**パターン、**予測課題2**はN社の**市販書籍**を加味して更に**プール長手方向**を東西としたパターン、**予測課題3**はセンターが毎年組込む**予測し難い内容**を考慮して取りまとめる。
- 研究会の予測課題1、2、3は、その3案で本試験課題に対して80%以上ズバリ的中することを目標に作成している(資格学校は毎週異なるパターン約10案程度を作図する手法であるが、研究会は3案に絞り込んでいる点が大きく異なる)。  
⇒研究会の予測課題は、H28とH29と80%以上ズバリ的中することができた(無料講座の製図H28及びH29「予測課題の検証結果」参照)。

表1 本試験課題と各社事前課題との要求室等の比較

は本試験で採用されると研究会が推定する類似項目

課題名	建設用地		指定㎡数 (**~**)	東西南北の条件				要求室												屋外 テラス	屋外 運動場	駐車場			駐輪場	備考
	規模	横		縦	東	西	南	北	軽運動部門						共用部門			管理部門								
									軽	中	重	テニ	テニ	テニ	健	健	休	テニ	テニ			テニ	施設	会議		
N社 書籍	課題①	1.80						[Redacted]														車いす	利用者	サービス		8/20分析
	課題②	1.80						[Redacted]																		8/20分析
	課題③	1.80						[Redacted]																		8/20分析
研究会	予測課題2	1.80						[Redacted]																		8/27確定

本内容は会員講座での公開

## 【予測課題2の決定理由】

- 予測課題2**は、**市販書籍の課題分析**(表1参照)を踏まえて、その中から出題確率の多いものを取り入れて、更に**予測課題1と大きく異なる**ように取りまとめた。 ⇒研究会の予測課題は、3パターンのみで試験課題の80%以上ズバリ的中を目指している(H28、H29は80%以上の中した)。
- 予測課題2が予測課題1と大きく異なる点は、以下の通りである。
  - 指定㎡数**: 予測課題1(2, 800㎡以上、3, 200㎡以下) ⇒ 予測課題2(2, 100㎡以上、2, 500㎡以下) ⇒ 指定㎡数は、面積が小さいほど取りまとめが厳しくなり難しい。予測課題2では市販書籍の中で最も小さい㎡数を採用した(表1参照)。エスキスが難しいが、取りまとめのヒントは、「適宜」の要求室である。
  - プール**: 予測課題1(方向指定なし、約400㎡) ⇒ 予測課題2(方向指定東西長手、プール&歩行プールあり) ⇒ 予測課題1のプールは最も基本的な寸法であり、南北長手として左右どちらかの端に8コマで納まる(本試験も方向指定なしの基本形)。予測課題2では、東西指定であり、大規模プールを想定した。
  - 吹抜け**: 予測課題1(吹抜け無し) ⇒ 予測課題2(吹抜け有り) ⇒ 予測課題1では、基本形として吹抜けを設けなかった。予測課題2では、吹抜けの書き方等を把握する意味から、カフェ部分に2階、3階吹抜けとなる空間を設定した。吹抜け部の2階と3階は、面積区画の関係から、特定防火設備のシャッターが必要となる。
  - 計画の要点等**: 予測課題1(図等の補足無し) ⇒ 予測課題2(図等の補足有り) ⇒ 近年、計画の要点等では、「図等により補足してもよい。」という出題がされるようになった。ここは、「・・・補足してもよい。」であるが、図等で補足しない場合、減点となると判断したほうが良い。予測課題2では、この図等の補足を取り入れた。